

想起項目の具象性は適応記憶に影響するか

○井関龍太^{1,2}・川崎恵里子³

¹日本学術振興会・²京都大学・³川村学園女子大学

背景

【適応記憶の存在】

単語リストをおぼえる際に、**サバイバル状況**との関連性を評定すると、他の符号化方法に比べ、より強力に記憶が促進される (e.g., Nairne, 2010; Nairne et al., 2007)

- ・自己関連づけやイメージ化よりも強力
- ・再生でも再認でも確認されている
- ・材料が単語でも絵でも再現される

【適応記憶のメカニズム】

記憶メカニズムは、生体の生存を有利にする形で進化してきた (領域限定性, 内容依存: Nairne & Pandeirada, 2008)

→**狩猟採集社会**における記憶要求を反映

- ・名詞ではサバイバル処理の効果がみられるが、形容詞 (パーソナリティ特性) では起こらないという報告 (Rudine et al., 2009, November)

→特性という**抽象概念**には、適応記憶は有効でない?

【本研究の目的】

おぼえる単語の**具象性**がサバイバル処理効果に影響を及ぼすかを検討する

- ・適応記憶が狩猟採集社会での記憶要求を反映したものなら、**具体物**に限定されるのではないか
- 品詞を名詞に統一して比較

方法

【**実験参加者**】 女子大学の学生32名。

【**要因計画**】 2 (評定シナリオ: 大草原・引っ越し) × 2 (単語リストの具象性: 高・低) の混合要因計画。シナリオが被験者間要因。

【**材料**】 小川・稲村 (1974) と巖島他 (1991) に基づいて、具象性の高い語と低い語を25語ずつ選んだ (イメージ性と学習容易性はなるべく同程度になるようにした)。

- ・高-具象性: 作家, 銀行, 綿花など (M = 6.11)
- ・低-具象性: 人生, 教育, 運命など (M = 2.53)

評定課題に用いる2種類のシナリオを用意した (e.g., Nairne et al., 2007; 岡田, 2009)。

・**大草原シナリオ**: 自分が何も持たない状態で**外国の大草原に一週間取り残される**ことを想像して、後で見る単語リストがこの状況とどの程度関連すると思うかの判断を求めた。

・**引っ越しシナリオ**: 自分が2, 3ヶ月後に外国に引っ越しすることを想像して、同様の判断を求めた。

【手続き】

・**評定段階**: 単語を一語ずつ提示して、シナリオの状況との関連性を5段階で評価した (1 = まったく関連しない ~ 5 = 非常によく関連する)。高・低-具象性語をブロック化して提示した。

・**妨害段階**: 数字系列の直後再生。

・**再生段階**: 評定段階で見た単語リストの自由再生。

結果と考察

【再生段階】

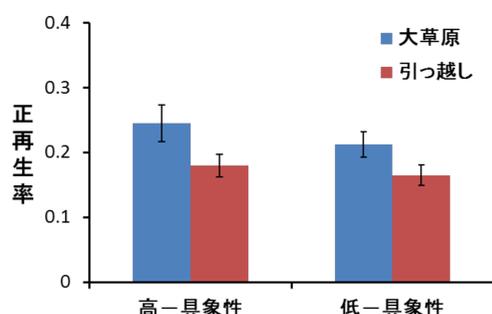


Figure 1. 各条件における再生率
エラーバーは標準誤差を表す。

2 (シナリオ) × 2 (具象性) の分散分析

- ・シナリオの主効果
- サバイバル処理**の効果を再現
- ・具象性の主効果, 交互作用はみられなかった
- 具象性は、適応記憶に影響しない?

リスト提示の順序で分けると...

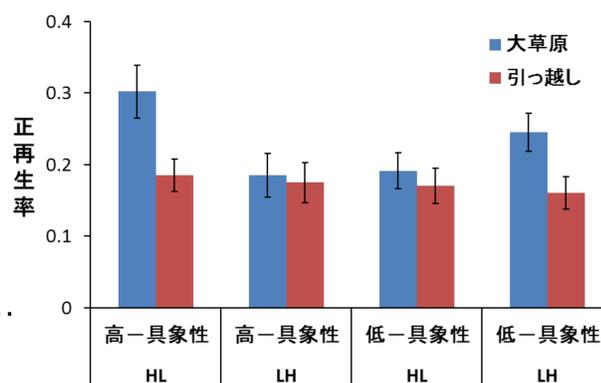
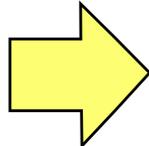


Figure 2. リストの提示順ごとに分けた場合の再生率
"HL"は、高-具象性リスト→低-具象性リストの順, "LH"はその逆の順序。エラーバーは標準誤差を表す。

2 (提示順) × 2 (シナリオ) × 2 (具象性) の分散分析

- ・提示順×シナリオ×具象性の交互作用:
高-具象性でも、低-具象性でも、**前半ブロック**で提示した場合にのみ、サバイバル処理の効果が有意

- ・提示順×具象性の交互作用:
高-具象性リストは、HL条件で再生率が高い

※**評定値**や**評定時間**では、上記の交互作用も提示順の主効果もみられなかった

【まとめ】

・単語の**具象性**は、単純な形では**サバイバル処理**の効果と関係しなかった

・その代わりに、**ブロック提示**との間で関連がみられた
提示順×具象性が示差性の手がかりとなった?

→適応記憶が**他の種類の記憶と同様の要因 (示差性)**によって媒介されている可能性



評定値

- ・具象性の主効果: 高 > 低

評定時間

- ・シナリオの主効果: 大草原 < 引っ越し (有意傾向)